を供給しているケースが多く，実質的にはこの差はもっと小さいものと考えられる。

なお，欧米各社とも，ターゲットとしての内製化率を有しているわけではなく，価格・品質・デリバリーのバランスをみながら購買を行った結果という意味合いが強いが，GMなどは今後積極的に外製化を進める意向といわれている。

② 電機産業

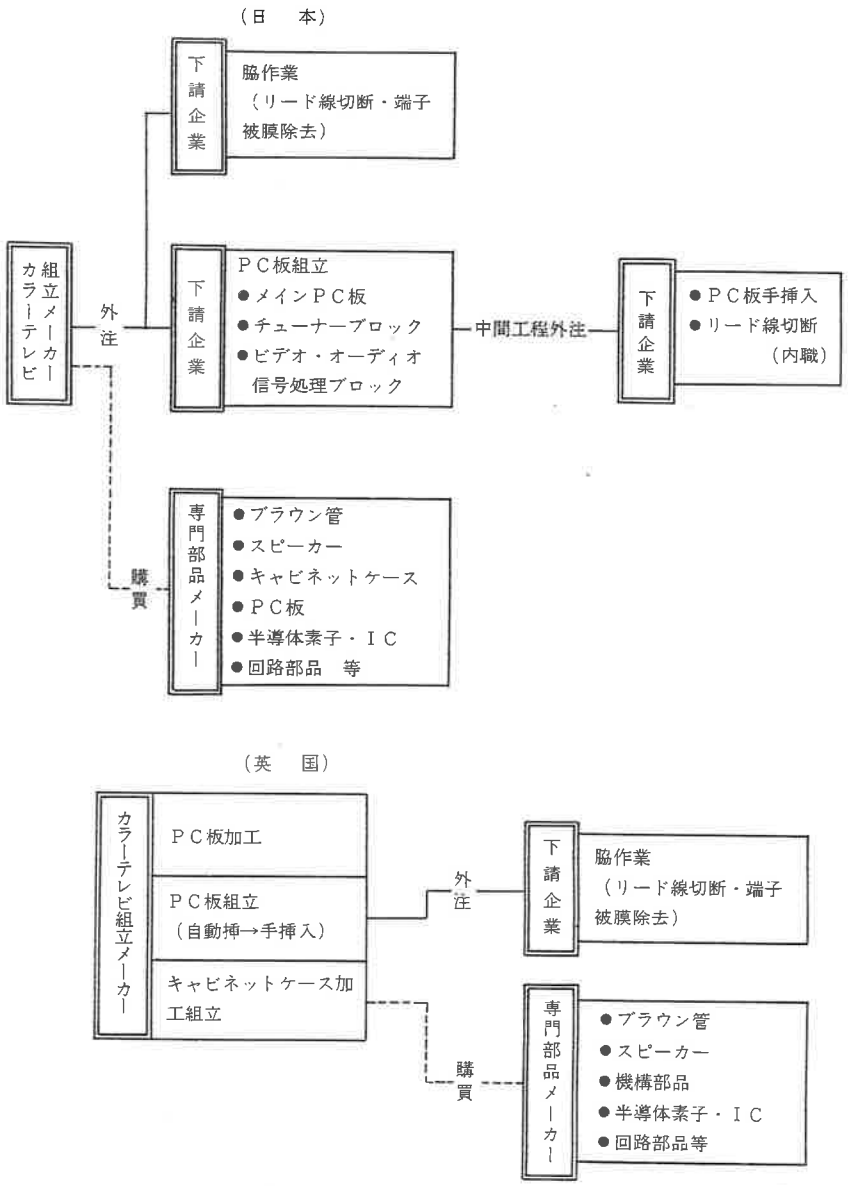
欧米の電機メーカーは，一般に電子部品の生産をはじめとして，必要な諸部分品の生産を殆んど自社内でおこなうという企業が多いが，これはそれぞれの企業が自社の製品の製造品質に責任を持つために，可能な限りの部分品を内製する，という方針をとっているためであるといわれる。

日本の企業の外注依存度は，一般に70～80％程度であり，殆んどの欧米企業は逆に外注依存率を20％程度としている。

ちなみに，カラーテレビの生産について日英比較をしたのが図Ｉ-2-15であり，これをみると英国では日本と異なりサブ・アセンブリのほとんどを内製していることがわかる。

以上のように欧米において自動車産業，電機産業をはじめとする産業で内製化率が高い理由としては次の点が考えられる。(イ)欧米企業は自社の生産管理（品質管理，生産量の確保，納期管理，価格管理など）を徹底し，円滑かつ安定した生産をおこなうため，積極的に部品メーカーを買収し，自社のディヴィジョンにとり込んでいった歴史を持つ。(ロ)米国においては特に特殊なスペックでの発注をする場合，受注企業の設備投資経費も負担する，というケースが多く，これは発注企業側の内製化，あるいは部品メーカーのテイクオーバーによる買収の速度を早めることになった。(ハ)欧州の特に電機産業においては景気変気による発注の打ち切りといった事態があり，中小部品メーカーの存立を著しく困難としている。(ニ)欧米の企業は自社の生産を拡大し，或は生産分野を拡大しようとする場合，生産規模の拡大，量産の経済効果によるコストダウン，市場シ

図Ｉ-2-15　カラーテレビの生産組織図



（出所）　ＪＥＴＲＯ「対欧企業進出をめぐる諸問題」